

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2018年10月13日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
<p>検証テーマ： オープニング、九州電力が出力制御、サウジアラビア国籍のジャーナリスト、 日米貿易交渉、殉職自衛官追悼式、ロシアと北朝鮮、 皇太子さまが全国障害者スポーツ大会の開会式に出席、【特集】終わらないモリカケ問題</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊洲市場が一般公開 ・ 九州電力が出力制御 ・ 大阪府で弟殺害の女性が父親も殺害した疑いで再逮捕へ ・ サウジアラビア国籍のジャーナリスト ・ 日米貿易交渉 ・ Facebook「個人情報流出は2900万人分」 ・ 山陽線貨物輸送が三ヶ月ぶりの運転 ・ イギリス、ユージェニー王女の結婚式 ・ フロリダ州でスクールバスが民家のプールに突っ込む ・ 殉職自衛官追悼式 ・ ロシアと北朝鮮 ・ 新宿御苑「夜歩」のイベントで夜も特別に開放 ・ 皇太子さまが全国障害者スポーツ大会の開会式に出席 ・ 【特集】終わらないモリカケ問題 ・ 【特集】検証！南海トラフ地震の臨時情報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→問題あり <p>番組の冒頭で金平キャスターが「ええ、第四次安倍内閣の評判が芳しくないようです。論功行賞、在庫一掃とか、お友達復権という言葉を目にしますが、一つにはいわゆるモリカケ疑惑が晴れていない、それできちんとリセットできないというのが大きな理由ではないでしょうか。特集でお伝えします。」とコメントしており、このコメントのシーンに当てられた時間は19秒だった。</p> <p>確かに「論功行賞」や「在庫一掃」、「お友達復権」という面は否定できないが、こうした表現に該当する安倍内閣のメンバーの殆どはモリカケ疑惑とは関係が薄いだろうし、そもそも「論功行賞」や「在庫一掃」あるいは「お友達復権」というのはモリカケ疑惑の有無とは無関係にそれ自体として批判的な響きを帯びて用いられる表現である。仮にモリカケ疑惑がなくとも、「論功行賞」や「在庫一掃」、「お友達復権」を理由に「安倍内閣の評判が芳しくない」とする批判は成立するわけで、そうした表現で批判される理由をあえてモリカケ疑惑が晴れていないということに求めるのはいささか強引過ぎやしないだろうか。まず第四次安倍内閣をモリカケ疑惑と結びつけて批判するという結論ありきで、論功行賞や在庫一掃あるいはお友達復権を結びつけているという印象は拭えず、そうした姿勢は番組全体をリードするキャスターが特定の政治的立場から発言している、ひいては放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に反していると思われるものであった。</p>		

・九州電力が出力制御：結論→問題あり

九州電力は太陽光発電の一部事業者に発電停止を求める出力制御を今日実施したとのこと、出力制御の目的は太陽光発電による発電量が増える日中に供給量が需要を大きく上回って大規模停電が起こるのを防ぐことにあること、玄海原発など原発が四基稼働し電力の供給量が高まる中で火力発電所などの一部を止めてもさらに 43 万キロワット供給電力を減らす必要があると九州電力は判断したとのこと、出力制御の対象は九州のおよそ 9700 箇所の太陽光発電所で今日午前 11 時半から午後四次まで実施され明日も実施される予定であるとのことことが報じられた。また、原発に反対する市民団体からは九州電力が出力制御を決めた昨日から抗議の声が上がっているとのことも報じられ、さよなら！原発佐賀連絡会の豊島耕一代表の「全く本末転倒。再生可能エネルギーが足りないから原発じゃなくて、電力が余っているのに原発というね、そういうとんでもない状況だと思います。」とのコメントも取り上げられていた。このトピックに当てられた時間は 91 秒だった。

・サウジアラビア国籍のジャーナリスト：結論→特に問題なし

サウジアラビア政府を批判してきたジャーナリストがトルコで行方不明になった問題でジャーナリストがサウジアラビア当局に殺害された証拠をトルコ政府が保有しているということ、サウジアラビアは一切の関与を否定していますが今月下旬に首都リヤドで開催される国際的なビジネスイベントではメディアパートナーとして参加予定だったアメリカやイギリスのメディアが参加を見合わせるなどサウジアラビアに対する批判と圧力が強まっているとのことことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 92 秒で、放送法の観点からは特に問題はみられなかった。

・日米貿易交渉：結論→特に問題なし

日本とアメリカで交渉を始める TAG 物品貿易協定を巡って茂木経済再生担当大臣は JNN の単独インタビューに応じ、アメリカが日本の自動車輸出に数量既成を求めてきた場合は反対する考えを示したとのことことが報じられ、茂木敏充経済再生相が「自由で公正な貿易を歪曲する、管理貿易に繋がりがかねない、こういった措置については反対でありまして我が国としていずれにしてもですね、国益に反するような合意をするつもりはありません。」というコメントや、インタビュアーの「今後の交渉でも自動車の輸入数量制限と言う問題についてはきちんと反対を貫いていく。」という問いかけに対し「そうですね。」と答え、茂木大臣は自動車の輸入数量制限明確に反対する考えを示した様子を取り上げられていた。また、物品以外の金融などの制度改革を大きく伴うサービスの分野は交渉の対象にならないと明らかにし今回の協定はこれまでの FTA 自由貿易協定とは異なるという認識を改めて強調しましたとのことも伝えられた。このトピックに当てられた時間は 79 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・殉職自衛官追悼式：結論→特に問題なし

殉職した自衛隊員の追悼式が防衛省で行われ、安倍総理は追悼の辞で職務の遂行に全身全霊を捧げた皆様はこの国の誇りだ、などと述べたこと、去年 9 月からの一年間に 30 人の公務での殉職が認定されていてその名簿を慰霊碑に納めた岩屋防衛大臣は不幸な事態が再び起こることがないように今後とも最善を尽くすと誓ったとのことことが報じられた。

また、安倍総理の「その尊い犠牲を無にすることなく世界の平和と安定に貢献するため全力をつくすことを固

くお誓い申し上げます。」という発言のシーンが取り上げられていた。

このトピックに当てられた時間は 41 秒で放送法の観点からは特に問題は見られなかった。

・ロシアと北朝鮮：結論→特に問題なし

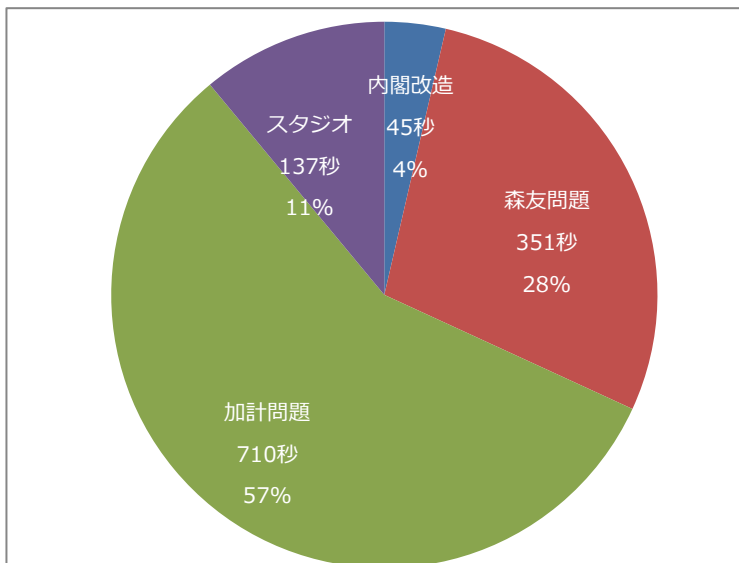
北朝鮮の金正恩党委員長とロシアのプーチン大統領が両国の国交樹立 70 周年に当たる 12 日、祝電をかわし、両国の関係を強化していく姿勢を示したとのこと、朝鮮中央通信によりますと金党委員長はプーチン氏に当てた祝電で、70 年の友好関係に触れ新時代の要求と両国人民の利益に合致するよう発展すると確信する、とのメッセージを送った一方、プーチン氏からは金党委員長宛に両国の関係強化を謳う祝電が届いたということが報じられた。このトピックに当てられた時間は 40 秒で、放送法上の問題は見られなかった。

・皇太子さまが全国障害者スポーツ大会の開会式に出席：結論→特に問題なし

福井市で行われた大会の開会式で皇太子さまは「障害者スポーツがより一層発展するとともに障害のある方々に対する理解がさらに広がることを希望します」と挨拶したとのこと、選手らの入場行進や福井県民による応援パフォーマンスに皇太子さまは笑顔で拍手を送られていたとことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 33 秒で、放送法上の問題は見られなかった。

・【特集】終わらないモリカケ問題：結論→一部評価できるが一部不十分

森友加計問題について 1243 秒に渡り特集で取り上げられていた。この特集では、内閣改造についてと森友問題をとり上げた場面、加計問題をとり上げた場面、スタジオでのやり取りという 4 つのシーンに大別された。それぞれのシーンの時間配分及び比率は以下の通りである。



内閣改造については「先週発足した第四次安倍改造内閣。安倍総理は全員野球内閣と胸を張るが、共同通信の世論調査では、今回の内閣改造や自民党役員人事について、評価するとした人が 31% だったのに対し、評価しないとした人が 45% に上った。厳しい評価の理由の一つが、国有地を大幅に値引きして売却したとして追及が続く森友学園問題だ。」というナレーションで、内閣に対する厳しい評価の一つの理由として森友学園問題があると伝えられた。

森友問題については自殺した近畿財務局職員男性の父親へのインタビューで以下に朱記したやり取りが VTR で取り上げられていた。

ナレ「森友学園への国有地売却を巡っておきた公文書の改ざん。これに関わっていた財務省、近畿財務局の男性職員が今年3月、自ら命を絶った。おととい、男性の父親が、胸の内を語ってくれた。」

日下部「賞状、あれ息子さんの？」

父親「そうそう。最初、大蔵省へ入った時に、なんか東京の方で、研修があったんです。その時にもらった賞状。」

ナレ「男性は長男で岡山県生まれ、高校卒業後に旧国鉄へ就職した後、当時の大蔵省へ地方採用のノンキャリアとして入省したという。」

父親「なんせ、あの、家庭が貧しかったもんで、よう本人は大学へ行きたかったみたいですけど、親思い言うかね、まあ優しいところもあったんですよ。普段は大きな声して、偉そうげなこともいいおりましたけど、」

ナレ「父親が、病院に駆け付けたとき、息子はベッドで眠るようになっていたという。」

父親「なんでかなあ思う。思いましたけどね、2月の中頃に帰ってきたんですよ、ここまで。息子と二人でここで、寒い時期ですからね、炬燵に入ってから、しょうもない話をぐちゃぐちゃしとったんですけど、」

日下部「自殺だと聞いた時にね、仕事がらみじゃないとか、っていう思いはありました？」

父親「あの森友の関係の仕事に携わるとるということは、詳しいことは言わんけどね、それはあの、言うとったから、その問題でやっぱり悩んだんかな思うだけで、こういう状況で死んだ言うことは、ほんまもう、やっぱり親としたらね、残念で仕方がないです。」

ナレ「男性が残したメモには、改ざんについて、財務省からの指示があった。このままでは自分一人の責任にされてしまう。冷たい。などつつづられていたという。関係者によると、男性は生前、財務省本省からの度重なる改ざん指示に強く反発していた。」

父親「なんとも思うとらんでしょ。下のほうの人間が死のうが生きようが。でもただ同じように仕事しとった人間がね、な一んにも逃げてしもうてしゃべらんのはなんかおかしいですね。そういう人らがなんで、こう、逃げてしまうかなんてね、実際人間そこにおる人がね。」

日下部「財務省のほうから、お父様のほうにですね、お話はありました？」

父親「いえいえ。何もないです。」

日下部「一言も？」

父親「はい。どの世界もいっしょじゃあ。下の弱いもんが、つらい思いをするだけです。」

加計学園問題では加計理事長の開いた記者会見、記者会見についての愛媛県の中村知事へのインタビュー、福田剛県議へのインタビュー、

【加計理事長記者会見】

ナレ「森友問題と同じく、終息が見えない加計学園の獣医学部新設問題。渦中の加計孝太郎理事長が六月以来、二度目となる記者会見を開いた。」

加計理事長「だから記録がないってことはあってないと思います。それはそういうことじゃないですか？もうちょっと覚えてないですね。」

ナレ「安倍総理が、腹心の友という加計理事長。最大のポイントは安倍総理がいつ獣医学部新設の計画を知ったのかだ。愛媛県が作成したいいわゆる愛媛文書には、2015年2月25日に加計理事長が安倍総理と面会したこと、さらに安倍総理がそういう新しい獣医学部の考えはいいねと話したと記されている。」

ナレ「それが事実だとすると、加計学園が国家戦略特区の事業者に選定された去年一月、初めて計画について知ったとする安倍総理の国会答弁と矛盾する。」

ナレ「これについて加計学園側は愛媛県に対し、渡辺事務局長が、実際にはなかった安倍総理と加計理事長の面会を引き合いに出し、誤った情報を与えたと説明した。」

加計学園渡辺良人事務局長「その場の雰囲気といいたいでしょうか。それでふと思ったことを言うたんじゃないかなと思います。」

ナレ「加計理事長はこれについて、」

加計理事長「常務のほうが勇み足をしましたといいたいでしょうか。この間申し上げましたように、事を前に進めるために、あのような誤解を招くようなことを申し上げたようで、大変、本人は、反省しておりますし、本人はもとよりでございますけれども、学園全体として心よりお詫び申し上げたいと思う次第であります。」

金平「首相と加計理事長の面会があったということを前提に先ほど、勇み足というようにおっしゃいましたけれども、そこから物事がどんどん進捗していったことについて、どういうふうにお考えなのかということを知りたいんです。」

加計理事長「本人としては、今県からも手を引かれて、また市からも手を引かれたらもう、私共加計学園だけでは到底できないものですから、そういう形のことを言ったという風に聞いております。」

金平「勇み足というのはあの、つまりケアレスミスというような言い方とはちがってですね」

加計理事長「あなたがもしそう取られたのであれば、失礼しました。」

金平「すべて、渡辺前事務局長が、架空の話を造ったということですか？」

加計理事長「私はよく存じ上げておりません。」

記者「存じ上げておりませんとは言っても、そういうことにして、いろいろな例えば県ですけども、」

加計理事長「その場にいませんでしたので、常務からの話を聞くわけですから、その場にいたらそれはもちろんそういうことになり魔将でしょうけど、」

ナレ「本当に安倍総理との面会は無かったのか。無かったと説明する根拠はなんなのか、質問が相次いだ。」

記者「理事長は当時、2015年2月25日どこでどう何をされていたんですか。」

加計理事長「三年も、三年、4年前ですか？3年前、ちょっと覚えておりませんですね。記録を調べてもらったんですけども、事務局のほうも無いということなんで、あのないんでしょう。」

岡山理科大上田剛久事務局長「記録も調べましたけど、お会いした記録は全くございません。」

記者「何年間保存されています？」

上田事務局長「えっと、今申し上げられませんが、規定がございまして、5年、あるいは7年保存していると思います。」

加計理事長「3年じゃないの？」

記者「ではなぜ今回？」

ナレ「愛媛文書には3年半前、渡辺事務局長が、当時の柳瀬総理秘書官と官邸で面会したことも記されている。これについて加計理事長は」

記者「柳瀬さんに会うことは理事長から何か指示があった？」

加計理事長「いやいや、知りません。」

記者「なぜ、こういうふうに書いているんですか？」

加計理事長「本人に聞いてみないと、分らんですね。」

記者「愛媛県の文書は全く目を通されてないんですか？」

加計理事長「はい」

記者「全くみていないと？これをもとに渡辺事務局長に質問されてなかったんですか？」

加計理事長「はい」

ナレ「一方で愛媛文書を読まずに会見に臨んだという加計理事長。記者からの厳しい追及が続く。」

記者「理事長、今日は何のための会見なんですか？」

加計理事長「ですから、先ほどから申し上げてますように、コンプライアンスとそれをきっちり守っていくという」

記者「終わらないですよ。このままじゃ。」ただ渡辺さんに全部押し付けてるようにしかみえない。」

加計理事長「いや、そんなことはないと思います。」

【中村知事インタビュー】

ナレ「愛媛県の中村時弘知事は。会見をどう受け止めたのか？直接話を聞いた。」

中村知事「会見をしたということについては、評価をしたいと思っています。で、ただ、中身については、そういう意味では愛媛県はうそをついていなかったっていうのは、立証されたと思うんですね。ですから、職員はありのままに、報告をしっかりと上げてきているということが証明されたのではないかなと思います。」

日下部「文書自体を、加計さん自身が全く見てないといったわけですよ。についてはどうですか？」

中村知事「それはもう昨日も申し上げましたけれども、あのそんなことないはずなんで、あの見てると僕は思いますからね。それはストレートに言われたほうがいいんじゃないですかねと、申し上げたいです。」

日下部「どうしてああいうことを言われたんです？」

中村知事「分かりません。」

日下部「ある意味、一般常識ていうかね。」

中村知事「そうですね。」

日下部「普通で感覚でえっ？見てから会見に行くってのは当然ですよ？」

中村知事「はい」

中村知事「見てるんじゃないですか。ありえないと思いますけどね。」

ナレ「そのうえで、加計学園側の説明について、」

中村知事「会っていない。ほかに行っていたというのであれば、その証拠をね、出せば、みんなずとんと腑に落ちると思うんで、それをそういう別のことやってらっしゃんでしたら、その証拠をね、出されたらいいんじゃないかって普通に思いますけどね。」

【福田剛県議インタビュー】

ナレ「今回の会見は学園に説明責任を果たすよう求める愛媛県議会の決議を受けて開かれたものだ。問題を追及してきた県議は今回の加計理事長の会見について」

福田剛県議「柳瀬さん副秘書官と会う部下である事務局長が会うこともですね、いや聞いてないですね、とか、そういった大きな企業体ですね、だれにでも上司がいるはずなそうですね。しかも渡辺事務局長とですね、柳瀬さんはね、腹心の友ではないんですね。アポも簡単に取れないだろうと思うし、そういった事は加計理事長なくしては、まずは考えられないことで、あるにも、普通だったらそうなんだけど、社員が、その首相秘書官と会うのに、理事長に、報連相というやつですね。報告、連絡、相談をしない、ぐらい、ガバナンスが無いのかなというちょっとびっくりしますね。」

【本宮勇県議インタビュー】

ナレ「渡辺事務局長と小中高で同級生だった本宮勇愛媛県議。地元、今治市への大学誘致の話を 2005 年、渡辺氏に持ちかけたという。」

本宮県議「私も事務局長と同級生という関係があるので、これまでずっと情報交換をしながらやっているそんな中で、あの、安倍総理と、理事長が非常に親しいというのを、やはりあの総理の動静とかあの、テレビのニュースと一緒にゴルフしているところが放映されたりしてですね、やっぱりあのかなり親しいんだな一と感じて、それなら安倍総理に頼んでみたらどうかというようなことはいった事があるんですよ。しかし学園曰く、彼曰く、理事長もそうだったんだと思うんですけども、非常に親しい、親しいからこそね、反対に頼めないのだと、というようなことをずっと言い続けてきたんですね。」

日下部「事務局長が？」

本宮県議「事務局長が？」

日下部「その事務局長がなぜあんなことをおったんでしょう？」

本宮県議「そこについては私はわかりませんが、いろいろな方々の反対もあって、岩盤が崩せなかったと、そんな中でも、ちょっと無理かなというような時期が3、4年前にあったんですよ。何とかでもこれ7、8年やってきたことだから、思いがあったから、まあそういう風な、ことになってしまったのかな一と。いうふうにしか思えないんですよ。ええ。」

【前川喜平インタビュー】

ナレ「加計学園の獣医学部新設に関し、官邸の関与を主張してきた元文部科学省事務次官の前川喜平氏は。」

金平「加計理事長と安倍総理がなんらかの面会、面談見たことがあって、物事が進んでいったというのは事実としてあると思われませんか？」

前川氏「私はそう思います。渡辺事務局長がその時点で、あの嘘をつく必然性は無いですから、しかもその前後の文書から見てもですね、え一一貫して、加計孝太郎理事長と、安倍晋三総理との間の面談というのをですね、まあ、その前から、計画していたし、そのあとの話もその面談が無ければ、つじつまが合わないことばかりですから、その後、柳瀬さんがどうして関係者にあつたのかということも説明できませんからね。」

ナレ「文書を読まずに会見に臨んだという加計理事長については、」

前川氏「私は語るに落ちるだと思います。あの一もし本当に、渡辺事務局長が虚偽の説明をしたんだとすれば、一体どんな虚偽の説明をしたんだと、それが愛媛県文書に乗ってるわけですから、どんな虚偽の説明をしたのかをちゃんと調べてですね、なんで君はこんなことを言ったんだと、いうことをちゃんと説明しなきゃいけないですよ。そのためにはまず、愛媛県文書に何が乗ってるかということを知らなければですね、責任取ることもできないはずなんです。それをやっていないということはまあそもそも書いてあることは本当のことが書いてあって、渡辺さんが虚偽の説明をしたということが嘘としか考えられない。」

VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し繰り返されていた。

膳場「改めて、行われた加計理事長の会見ですけれども、あの一記者の追及に対して満足な答えが聞けないというようなやり取りが目立っていましたが、実際に金平さん、あの現場に行ってもどんな様子だったですか？」

金平「あのね、加計理事長の想像以上のいい加減さに驚いたっていうね、正直なところですね。あの会見場にいた記者全員がそうだったって僕は思いますね。あの前回の記者会見であれだけの批判を浴びたわけですから、それを踏まえるともう少しね、準備をして記者会見に臨んだのかな一という風に思ったんですけども、愛媛県文書を見ていないっていう風にですね、断言してしまうような神経に唾然としたというか、ええっていう感じでしたけど、あの、とにかく、今度こそきちんとオープンな形で記者会見を開いてですね、説明責任をきちんと果たしていただきたいなと思うんですけども、それがもし不可能だというのであれば、え一これは前川さんのおつ

しゃってたんですが、強制権を伴う、強制力を伴う、国会の証人喚問とか参考人招致でね、きちんと証言をするべきだと思いますね。」

日下部「わたしあの一森友学園がらみでですね、自殺した近畿財務局のお父様に話を聞きました。お父さんは息子さんのことをこういっておりました。意見をはっきりという曲があったことが嫌いな性格だったと。そういうことでね、文章改ざんを命ぜられたとき、息子さんはいかに苦悩したかね、え一話を聞いてお父さんの無念さがひしひしと伝わってきました。あと、財務省本省からお父様に何もなかったということなんですけど、職場の同僚の人たちは葬儀、墓参り、たびたびは足を運んでいたということなんです。」

加計学園については記者会見の映像のみならず、愛媛県知事、そして自民党の愛媛県議、立憲民主党の愛媛県議、前川喜平元文部科学事務次官など様々な関係者の見解を拾っており、この点については放送法第四条一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らしても評価できるものだった。

対して、森友問題については自殺した近畿財務局職員男性の父親へのインタビューのみが取り上げられていた。遺族へのインタビューであるから多分に主観的であることは仕方のないことではあるが、加計学園については多様な関係者の見解を拾っているのに対し、森友学園では自殺した職員男性の父親へのインタビューのみだったという点がおそまつさを感じさせるものであった。また、その内容も「改竄を苦にして自殺」という線のみで語られていた。しかし、これまでの報道の中で伝えられている限りにおいても残業時間や人事異動の希望が通らなかった、などの様々な要因が遭ったことを伺わせるものだったが、そうした他の要因については触れられていなかった。そうした点については同号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らしてやや不十分であったと言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・【特集】終わらないモリカケ問題→結論：やや問題あり

VTR で取り上げられていた福田剛県議は立憲民主党所属の県議会議員（<http://fukuda244.life.coocan.jp/>）、本宮勇県議は自由民主党所属の県議会議員（<http://www.i-hongu.jp/prof.html>）である。

しかし VTR では福田県議については「問題を追及してきた県議」と、本宮県議は「渡辺事務局長と小中高で同級生」としか伝えられていなかった。加計問題は政局の問題ともなっているが、こうした問題について政治家の意見を紹介する際に所属政党も合わせて伝えるかどうかで、視聴者の受け取る印象もずいぶん違ってくるのではなかろうか。そうした中で所属政党を伏せるというのはやはり特定の印象へと視聴者を方向づける意図を感じさせるものであった。

検証者所感

・オープニング

金平キャスターのオープニングでの「ええ、第四次安倍内閣の評判が芳しくないようです。論功行賞、在庫一掃とか、お友達復権という言葉を目にしますが、一つにはいわゆるモリカケ疑惑が晴れていない、それできちんとリセットできないというのが大きな理由ではないでしょうか。特集でお伝えします。」というコメントであるが、「在庫一掃」については当選回数を重ねた国会議員が当選回数を理由に「自分も大臣になれるかも」という期待を抱くからこそ、政権人事の中で悩ましい問題として上がってくるのであって、そうした期待を抱く議員が少なければそもそも「在庫一掃」というのは必要ない話である。ところが、小泉政権や民主党政権あるいは自民

党による政権奪還などで崩れつつあるが依然として政界に長らく続く当選回数を基準とした人事慣行が、国会議員に対して「当選回数を重ねれば大臣になれる」という期待を抱かせていることに加えて、メディアが「入閣適齢期」などと国会議員の期待感を煽ることも「在庫」の問題を助長していると言える。

また、「論功行賞」や「お友達復権」についても、党内での選挙で戦った関係者をどう処遇するのかというのもまた政権にとって悩ましい問題として上がってきたことである。

こうした問題を解決する一つの解として、そもそも総裁を選挙による選出ではなく話し合いや前任者の裁定による選出にし、一昔前の古い自民党的な「総主流派体制」にしてしまう、というのはあるだろう。しかし、その場合は、今以上に国民と政権首班選出プロセスとの距離は遠のいてしまう、というデメリットもある。他方で、選挙を行う以上は、派閥のバランスをも変容させるのか、派閥のバランスを維持するのかはその時時で異なるだろうが、総裁選のプロセスや結果が閣僚や党役員的人事へフィードバックされるのは当たり前である。また、「論功行賞」といえば聞こえが悪いのかもしれないが、言い方を変えれば「信賞必罰」で臨んでいるともいえる。総裁選や選挙戦での功績に応じた人事であれば、他の基準に比べて選に漏れた人もまだ納得しやすいという事情もあるのではなかろうか。

論功行賞や在庫一掃を批判するのはそれはそれで一つの考えではあると思うが、そうであればどういったものを党役員や閣僚人事の原則に据えるべきだと考えているのだろうか、非常に気になった。